

## V. 稲城市の色彩のルールの考え方

## (2) 対象区分①の色彩

&gt;&gt;&gt;三沢川左岸丘陵地、三沢川右岸丘陵地

&gt;&gt;&gt;中高層建築物



## 色彩景観の現況

- ・向陽台、長峰、若葉台などのニュータウンの中高層住宅群はY(黄)、Y R(黄赤)系のあたたかみのある色相が中心で、それぞれにまとまりのある住宅地となっています。また、比較的新しい建物になると、明度を抑えた濃い茶系の色彩の建物も見られます。
- ・従来から立地している施設の中には白(オフホワイト)系の色調を使用しているものが見られます。その中の一部には、経年変化に伴う汚れや退色などが目立つものもあります。
- ・長大な壁面をもつ中高層マンション等においては、建物の表情に変化を付けるためにベランダやフレームなどの部位に、アクセントとなる色を効果的に使用しているものが見られます。

## 色彩誘導の考え方

- ・外壁基調色は、周囲を緑に包まれた丘陵地に違和感を与えない低彩度の控えめな色彩を基調とし、自然景観にとけ込む穏やかな暖色系の色相とします。また、自然景観から突出して見え、光の影響を受けやすい極端に明度の高い(白い)色調の使用を避けるようにします。
- ・外壁強調色は、目立つ高彩度の使用を避けて、周囲のまち並みに調和しつつ、建築物に表情を与えることが可能となる中彩度程度までの色彩とします。また、後背の自然景観との調和を図るため、中遠景から目につきやすい中～高層部への使用をできる限り避けるようにします。
- ・屋根面については、起伏に富んだ地形により、多くの場所から眺望することが可能なため、周囲のまち並みに配慮しつつ背景となる緑から突出しない、中明度、低彩度までの色彩とします。

【色彩誘導のイメージ】：あたたかみのある茶系の低彩度色の配色により、緑豊かな自然景観との調和を図ります。

## 【誘導前】



## 【誘導後】



色彩の範囲



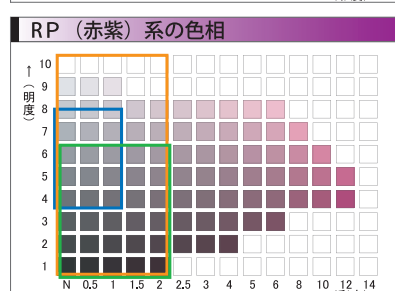
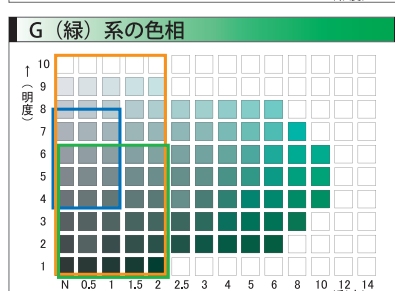
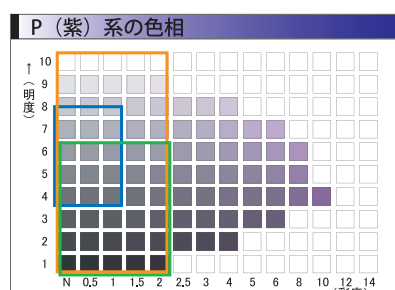
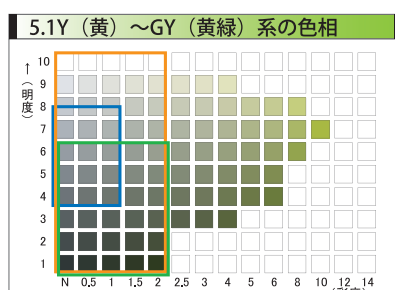
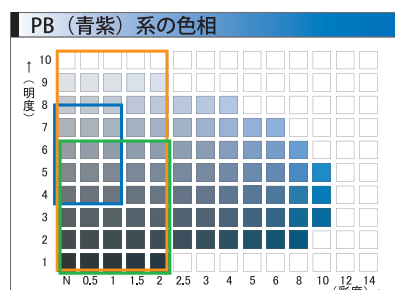
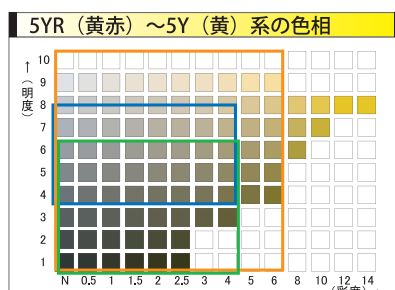
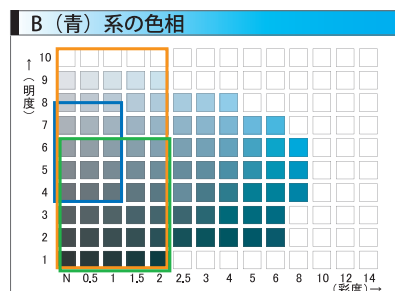
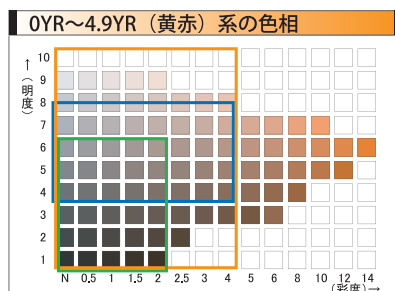
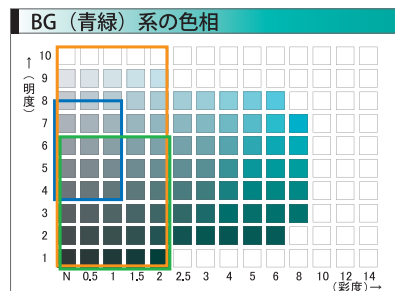
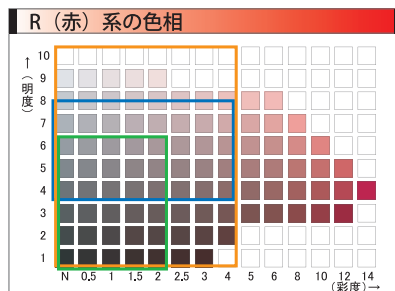
対象地域

三沢川左岸丘陵地  
三沢川右岸丘陵地

対象規模

高さ10m以上または  
延べ面積1,000㎡以上の建築物

ルールの適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~5.OY	4以上8.5未満	4以下
	その他		1以下
外壁強調色	0R~4.9YR	-	4以下
	5.0YR~5.OY		6以下
	その他		2以下
屋根色	5.0YR~5.OY	6以下	4以下
	その他		2以下



凡例

- 外壁基調色の色彩の範囲  
(外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の色彩の範囲  
(外壁各面の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の色彩の範囲

※色票は基本的に各色相の中央色のみを示しています。

※色票の中央に使用可能範囲の境界線があるものについてはその値の「0.5」を示しています。

例えば下記の場合は

8   8.5未満となります。